

ジェンダーフリースペース通信 7号

GENDER FREE

PRESS

〒195-8585

東京都町田市金井町2160

和光大学G112(G棟1階)

044-989-7777 内線4112

www.wako.ac.jp/gender/

2005. 12. 20 発行

去る一〇月一二日ファシリテータの竹森茂子さん、すずきこーたさん、花崎攝さんをお招きして、フォーラム・シアターを開催しました。

『ジェンダーってなに？』

——自分らしい？期待されるらしさ？
うー、どうすればいいんだ！？」

今回用いられたフォーラム・シアターという手法は、演劇を通して考え、問題を共有し、討論するというものです。大学生活の中の何気ないシーン(*)の芝居を一回通して見た後で、もう一度同じ芝居が上演されます。今度は「引っかかり」を感じた場面で劇を一時停止し、観劇しながら自分ならどうするかと意見を言ったり自分で役を演じたりしてストーリーを変化させる体験をします。ちょっとした言葉や設定、態度が変わること



周囲の人の反応が異なり、まったく違った人間関係や場面が構成されていくのを体感するというものです。

主催者から「実際に学生の方にも参加してもらった方が、大学の雰囲気や会話にリアリティが出る」との提案をいただき、学生の出演者を募集しました。出演者は自分達の体験談や意見を語り合い、アイデアを出しながらシナリオを作っていく稽古の過程で、日頃気付かないでいたジェンダーや居心地の悪さといった違和感を発見することもありました。

フォーラムシアターのこのような試みは、身体を通して自らの生きようや意識を客観的に捉え直すよい機会となったように思います。

* 今回のエピソード—あなたならどうする！？

サークル

OBを交えての飲み会の場面。女子がお酌した方が美味しい／男なら飲み／男子がファンシーグッズを持つと変、おかしい。

大学食堂

女子学生がおしゃべりをしている場面。彼のために手料理／彼「今日遅くなるからご飯作って待ってて」

彼の部屋

彼女が髪を短く切ってやってくる場面。彼「そんな頭じゃ人に紹介できない」／「俺のオンナだろ！」

『キャリアアプランニングセミナー』

9月28日キャリアレボリユーション研究会のキャリアカウンセラー（甘粕潔・岡田明子・荻野令子の3名）を講師にお招きして開催しました。

人生のあらゆる場面がキャリア開発の場であり、例えば大学の勉強やサークルを一生懸命やったり、何かに興味を持って努力したりということも、キャリアの一部を形作っているとした上で、自己理解を入り口としたキャリア構築の説明がありました。

具体的には、ゲーム感覚で質問に答えることで、得意なことや好きなこと、したいことなど自分をよく知り（適性）、夢ややりたいこと（適職）を探していききました。自己イメージ通りだった人もいれば、自分でも思わぬ意外な面を発見した人もいました。グループ内で各自発表し合いながら、ワイワイと楽しく盛り上がりました。

次に、働き方や人生がどんな風になっていたいか、これからの10年間を具体的にイメージして人生目標や行動プランを立ててみました。漠然とした今後の時間をより明確に捉えるきっかけになり、就職や進学といった進路だけでなく、日々の生活の中でどのような選択をしていくのか考え実践していく役に立つと思います。

■参加者コメント■

・ゲームを通じて自分のやりたことがはっきり見えてきたことは大きな収穫でした。やりたいことをいつかやるために、今できることからやって行きたいです。自分自身をみつめなおす、いい機会でした。

・人生とは何かを考えさせられるきっかけになりました。仕事と自分との関係性が具体的に明確になる第一歩になった。

・興味のあることと適職とされた職が全然違いました。想像と違って、意外なところに適職があるのかもしれないと思いました。色々調べて自分を見つめ直していきたいと思います。



講師の説明に従ってシートを埋めながら
キャリアを模索する参加者

ジェンダーの視点で「軍隊を捨てた国」をみる

船橋 邦子

生涯に一度は行ってみたい国がある。私にとって、その一つだったコスタリカに行く機会を得て、わずか8日間だったが首都サンホセに滞在した。ご存知のようにコスタリカは憲法（1949年制定）で「恒久的制度としての軍隊」を禁止し、戦後一貫して非武装中立政策をとり、「軍隊を捨てた国」「軍隊を忘れた国」として有名だ。また日本の六分の一に過ぎない一人当たりのGDPが4670ドルという状況で「教育と福祉、環境向上」を最重要課題として取り組んでいる国としても知られている。このような状況を可能にした要因は何かについて知りたい、軍隊を捨てた国のジェンダー問題にも触れてみたい、というのがコスタリカ行きの私の動機だった。きわめて限られた時間と空間を通してみたコスタリカ（その一部）について報告したい。

まず感動したのは、非武装中立を可能にしているのが国家予算の三分の一近くを占める教育の内容だった。隣国であるニカラグアからの移民の居住区にある小学校を私は訪問した。コスタリカで最も貧しい人々の住む地域だ。ここでは彼ら彼女らを外国人として排除するのではなく、未来のコスタリカ人として教育を受ける権利を保障している。子どもたちは三部制（午前、午後、夜間）の学校に通い、識字率は96%と高い。

私たちが訪問した小学一年生のクラスでは先生が子どもたちに「今日は日本からのお客様がいる。みなさんの授業をみせてもいいですか」と相談をもちかける。「いいよ」という返事を得て私たちは入室が許可された。生徒と教師の間に民

主主義的な関係を築くなかで民主主義とは何か、また、子どもは権利をもち行使する主体であることを学んでいく。「平和文化教育」という名で実践されている教育は学校だけではなくコミュニティまで含めて、自ら平和をつくり出す文化を育むものとしての平和意識、社会意識を高めていくことを目的にしている。さらに地域が抱える様々な問題を解決する手段としても考えられている。

「平和とは、決して終わることのない一つの過程であり、態度であり、生き方であり、問題を解き明かして紛争を解決する、一つの方法である」という1987年にノーベル平和賞をもらったアリアス大統領の言葉は胸をうつ。

しかしこの「平和」を提唱する国の平和にもマチズモは根強く生き続けていることがみえてきた。驚いたことにはこの国では2002年に生まれた子どもの55%が婚外子であることだった。これは女性の社会進出によって事実婚が法的に承認されたこともあるが、望まない妊娠をしても中絶が認められていないことに多くは起因しているということだ。マチズモの国で男性が妊娠に責任を取らないため女性運動によって2001年には「責任親権法」が制定された。この法律はDNA鑑定を含む検査によって生物学的に父親を特定し、子どもの親権と養育義務を負わせることを目的としている。

DV（ドメスティックバイオレンス）の被害女性を支援する団体、（日本語訳「希望財団」）を訪問したところ、女性に対する暴力の現状は日本とあまり変わらないことが分かった。DV法は1995年に制定され女性問題解決のための行政部門（女性省）もつくられ、制度化はかなり進んでいるものの現実とのギャップがここでも問題となっていた。

学生企画大歓迎

ジェンダーフリースペースでは学生の皆さんからの

①「こんな活動をしている人の話を聞いてみたい」

↓ 講演会を企画。

②「是非これは他の人にも知ってもらいたい」

↓ ワークショップを企画。

③「参加者の人たちとこの作品について語り合ってみよう」

↓ 鑑賞会を企画。

など、ジェンダーに関連する関連付けることのできる・・・(?)興味のある内容の企画を歓迎します。是非ジェンダーフリースペースまで。相談・申し込みは個人、グループを問いません。

|| これまでの学生企画実績 ||

○ 四年十一月 辛淑玉さんの講演会

○ 四年十二月 映画『第七官界彷徨』上映会&監督のトーク

○ 五年一二月 ジェンダーフリースペース通信号外号の発行

ジェンダーフリースペース通信『号外号』
お気に入りの映画やマンガについて、6人の人がジェンダーの視点からコメントを書いた評論集です。既に知っている作品も初めての作品も、号外号を読んで感想の違いや参考にしてみてください。
ジェンダーフリースペース内や図書館入口、学生生活課等に配布してあります。是非ご覧ください。

本棚から

『女性の身体と人権』

性的自己決定権への歩み

若尾典子著 学陽書房 2005年

『女性の身体と人権』
「女性の身体は、女性の身体への暴力を告発する。それほどに女性の身体には、暴力が刻印されている。」女、って誰だとかクイア理論だとかポストジェンダー／フェミニズムとかいわれるが、本質主義ではなく、根源的に「女性の身体」の歴史は暴力の発現の場でもあり続けている。明治期から戦争を経て、「国家買春保障制度」がいかに成されたか。近現代における「性的自己決定権」への挑戦の数々。そして意義深いのは、日本の家父長制の形成と不可分の天皇制との関係を著している点にある。さらに『たけくらべ』等の小説を取り上げ、そこから現実へとフィードバックさせることで、たんなる学術書としての堅苦しさはなく、読みやすく、自分に近づけて考えやすい。お薦めの一冊、著者は憲法学者。
(和光大学大学院・富岡千尋)

*ジェンダーフリースペースでも扱っています。

これからのイベント

・講演『あなたのひとりぐらし これからどうなる?』

【一月一七日(火) 午後四時二〇分〜】G112にて

坂本洋子さんを迎えて、暮らし方に関する日本の現状や制度について考えます。

・資料展示『モノに見る女／男』

【六月五日〜九日】大学図書館梅根記念室にて

今回も女と男に関する身近なモノをテーマに展示します。

*この他にもパフォーマンスや講演会など計画中です。学内掲示・チラシを見て、是非ご参加ください。